

TOYO channel

語学研修

フィリピン語学研修

■日程:2024年5月26日(日)~6月2日(日)
■参加生徒:高校1年グローバルコース 37名

先生の声

The 5-day intensive English language course for 1st Grade Global students at the University of San Jose-Recoletos in Cebu City, the Philippines was a great success. After eight hours of lessons a day, Global students always looked happy. I knew this meant that they really loved English. What they studied was a curriculum based on 5 modules: Everyday life; Travel; Research; Media & Communications; and Cross-cultural communication. The highlight was a cultural exchange program held by local high school students, who introduced their culture through fun games and activities. Toyo students also introduced Japanese culture through presentations and activities they had prepared in English. On the day off, many friends that Toyo students made with USJ-R students met them for an afternoon of shopping, which further strengthened international bonds of friendship. In the future, overseas language programs could include more interaction with local students. Also, these programs can be utilized to improve English qualifications. Recently, there has been a focus on summarizing information in English. In the future, I hope skills such as these can be included in overseas language programs. 高1グローバルコース担任 グレン先生

生徒の声

「研修を通して変化したこと」
私は、5月26日から6月2日までフィリピンのセブ島に語学研修に行きました。この語学研修は、観光もありましたが語学研修というだけあり、英語学習の時間が午前4時間、午後にも4時間ととてもハードなスケジュールでした。この長いレッスンの中で、「きちんとした文法にならなくても、間違えてでもいいから自分の知っている単語を使って話すことやジェスチャーを使うなど自分の気持ちを伝えたい!」と思えば生まれた国が違う先生とも理解し合い会話ができるということがわかりました。はじめは自分から話しかけられないという恐怖心がありましたが、毎日過ごしていくうちに英語を話すことがとても楽しくなり、自分から話しかけ会話を広げたいという気持ちに変わりました。そのおかげで、空港で出会った外国人や日本で出会った外国人に自分から積極的に話しかけられるようになりました。また、私は夏休みに行われたカナダでの語学研修にも参加しました。セブ島での研修を活かして自分からたくさん話しかけ、たくさんの人と話することができました。今後も勇気を出して自分からという気持ちを忘れずに英語の勉強をしていきたいです。

高校1年グローバルコース

長命 瑠々

(土浦市立土浦第二中出身)

シドニー語学研修

■日程:2024年8月5日(月)~8月14日(水)
■参加生徒:高校2年特別進学コース 62名

先生の声

今年の高校2年生特進コースは、従来の「アデレード語学研修」から「シドニー語学研修」へと変更され、学びの場も「高校から大学」、生活拠点も「ホームステイから大学寮」へと変わりました。Western Sydney University では「人前で話す力の向上」や「アボリジニー文化」を学び、異文化理解力が深まったと思います。研修後半では、学校の課題研究を英語でプレゼンし、発信力を高める貴重な機会になりました。また、寮生活を通じて自炊や洗濯などに挑戦し、協調性が養われ、普段家事をしてくれる親への感謝の気持ちが芽生えたようです。シドニー市内観光では、Manly Beachでのビーチフラッグやビーチサッカーが生徒にとって特に楽しい思い出となり、透き通るような海を背景にたくさん写真を撮っていました。観光時は街頭インタビューも行い、英語を使う自信を得ました。現地大学生のサポートもあり、安心して班別行動を行っていたように思います。この経験を糧に、人間力と英語力をさらに磨き、来年の受験に備えていきます。

高2特別進学コース担任 大谷先生

生徒の声

「クラスメイトと過ごす異国の10日間」
「今年度から特進コースの修学旅行が変わるらしい」という話を聞いたのは高校1年の3学期だった。入学前や先生からの話とは全く異なる内容だったことに加え夏休み中に修学旅行があることや、夏に寒い場所に行くことも含め、空港に向かう車の中は心配でいっぱいだった。しかし、飛行機に乗り、海外での生活やクラスメイトとの10日間を考えるうちに不安は消えていった。オーストラリアでの生活で学んだ2つのことがある。1つ目は、英語が苦手でも不安になる必要はないということ。私は英語の授業やスピーキングに苦手意識があった。しかし、シドニー観光や動物園見学でのインタビュー課題を通して相手と上手くコミュニケーションをできるようになった。相手がわかりやすく話してくれたことをきっかけに積極的に英語を使うことができるようになり、最終日にはかなり聞き取れるようになった。2つ目は、クラスメイトと過ごす時間の大切さ。寮で一緒に過ごすことに不安があったが、一緒に料理をしたり、友人の新しい一面に気づく中で毎日が楽しくなった。最初は不安で始まった夏休みの10日間は、一生忘れられない思い出となった。

高校2年特別進学コース

有元 優佳

(柏市立柏第五中出身)

シンガポール研修(希望者)

■日程:2024年7月29日(月)~8月3日(土)
■参加生徒:高校希望者 13名

先生の声

現地での活動は4日ほどでしたが、想像よりもはるかに生徒たちを成長させてくれました。食事、景色、大学見学のどれを取っても普段味わうことのない体験をしました。興味が人を成長させるエンジンだと気づきました。

外国語科 三浦先生

生徒の声

僕はシンガポールで、多様な文化に触れ、それぞれの文化に魅力を感じました。また、街には近代的なビルや高層マンションが立ち並び、都市の発展に感動し、刺激的で貴重な経験を得られた充実した研修になりました。

高校3年進学コース 櫛田 治弘

(松戸市立第六中出身)

バンクーバー研修(希望者)

■日程:2024年8月7日(水)~8月19日(月)
■参加生徒:高校希望者 15名

先生の声

8月7日~19日の約2週間にわたってカナダのバンクーバーにて研修が行われました。主な内容はホームステイをしながら英語学校に通い、午前中は英語の授業で午後は様々なアクティビティでした。滞在中は晴天が続く、日中の気温は上がりますが、湿度が低いのでとても気持ちよく快適に生活することができました。参加生徒は高校のコースも学年も異なる13名で、多くの生徒は研修前にはお互いに会ったこともなかった生徒でしたが、研修を通じた新たな友情を育むことができました。この研修で経験したことを今後活かしていただきたいと思います。活躍に期待しています。

外国語科 井上先生

生徒の声

バンクーバー研修では、フィリピン人、ペルー人、ボリビア人、チリ人、韓国人との交流の場がありました。研修に行く前は、「英語を間違えて失礼になったらどうしよう…」と消極的な気持ちばかりでしたが、過ごしていくうちに「せっかく英語を学べる環境があるのにその気持ちのまま2週間を過ごすのは勿体ない!」と思うようになりました。その日から、どんなに間違えても伝えることを大切にしました。この研修を通して、伝えようとする姿勢や積極性の大切さを学びました。

高校3年中高一貫コース 中澤 陽香

(東洋大学附属牛久中出身)

ニュージーランド研修(希望者)

■日程:2024年7月20日(土)~8月31日(土)
■参加生徒:高校希望者 7名

先生の声

ニュージーランド北島・パーマストンノースの3つの高校に、本校生7名が6週間通学しました。滞在はホームステイ、自分で時間割をつくり、現地生徒と一緒に受ける授業、英語力だけでなく、精神面もたくましくなる研修です。

国際部 石塚先生

生徒の声

私は好奇心でニュージーランドに行きました。自ら話しかけて多くの友達を作り、休み時間や放課後に友達とリンゴをかじりながらバスケットやラグビーをして遊んでいました。体育の授業では、裸足で外を走り回るのでとても面白く、とても痛かったため、やはり文化の違いを感じました。また、みんな190cmくらいでムキムキなので、スポーツはとても強かったです。ニュージーランドに行ったことで英語力と大きな自信を持てるようになりました。

高校1年中高一貫コース 前澤 匡慶(東洋大学附属牛久中出身)

附属校サミット 第29回 全国私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研修集会

「アフター GIGA 時代の哲学と探究——なぜ、なぜ、なぜ！の追究——」

- 主催：全国私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研究集会実施連盟
- 後援：日本私立大学連盟 日本私立大学協会
- 日時：2024年8月30日(金)・31日(土)
- 会場：東洋大学附属牛久中学校・高等学校
- プログラム：研究授業、研究協議会、分科会、ポスターセッション、生徒発表



研究授業

地歴公民科 日本史探究 本保 泰良先生

先生の声

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編第2章地理歴史の各科目第4節日本史探究2内容とその取扱い⑤課題（問い）の設定と資料の取扱いでは、次のように述べられている。「日本史探究」において重要であるのは、第一に課題（問い）の設定であり、第二に課題（問い）の追究を促す資料の活用である。…教師が学習のねらいを十分に把握し、ねらいに則した資料を選択し提示することが重要である。また、生徒が課題（問い）を考察したり、お互いに意見を表明したりする際も、適切な資料を基に、根拠を踏まえて考察するよう、指導を工夫することが重要である。歴史の見方・考え方を深めさせるとともに、歴史を多角的・多面的に捉えさせるため、今回の授業では「室町幕府の財政と違い」との関連性について考察させた。商業都市京都を所在地とした室町幕府は、金融業者である土倉に課した税が重要な財政基盤となった。しかし、嘉吉の徳政令発布によって土倉は経済的打撃を受けたため、幕府への税の納入額が大幅に減少した。幕府は財政難を克服するため、日明貿易で獲得した将軍家の美術品コレクションを売却するが、これによって美術品の数が減少した。少なくなった美術品を効果的に陳列する必要性に迫られる中で、違い棚という新しいデザインが創案されることになった。この授業を展開する上で、研究者の論文を資料として活用し、生徒はグループワークを通して、資料を根拠に考察を深めることができた。学習指導要領の理念を具現化する、1つの授業の在り方を提案できたと考えている。



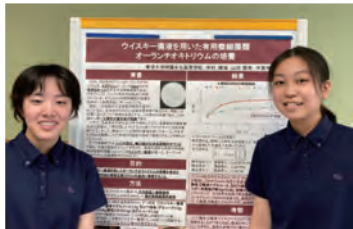
ポスターセッション

- 題 名：「ウイスキー廃液を用いた有用微生物オーランチオキトリウムの培養」
- 発表者：高校3年進学コース 今村 晴海（つくば市立谷田部東中出身）
高校3年進学コース 山田 響希（河内町立かわち学園出身）



生徒の声

研究のきっかけは、有用なオイルを生産するとして注目を集めているオーランチオキトリウムを培養する高価なGTY培地の代わりとして、適切な処理や有効活用が課題となっているウイスキー廃液を用いてオーランチオキトリウムを培養し、SDGsの達成に貢献をしたいと思ったからです。この研究の面白いポイントは、ウイスキー廃液がどのくらい有効なのか調べるための工夫として、ウイスキー廃液だけでなく、ウイスキー廃液+グルコースやGTY培地、グルコースのみの培地を用意し、対照実験を行った点と、ウイスキー廃液はGTY培地と同じ効率で増殖できたという結果です。本来捨てられてしまうウイスキー廃液を用いてオーランチオキトリウムを培養できたという結果は、ウイスキー廃液の新たな活用法の1つとなり、ウイスキー廃液の活用可能性が広がると思います。研究を行う上で難しいと感じた点は、コンタミネーションを起こさないようにすることです。吸光度という物質中を光が通る際にどれくらい吸収されて弱まるかという測定方法を用い、オーランチオキトリウムの増殖を調べました。吸光度を求める時に培養液に違う生物が混ざってしまうとオーランチオキトリウムだけの吸光度が測定できず、結果に影響を及ぼしてしまうのでコンタミネーションを起こさないように特に気を付けました。コンタミネーションを起こさないために注意した点は、無菌操作を行う環境に汚染源を持ち込まないようにすることです。手洗い消毒を入念に行い、使用する道具はすべて滅菌、消毒をするように心がけました。今後の展望は、ウイスキー廃液とウイスキー廃液+グルコースの培地で細胞群の形成が見られた要因がウイスキー廃液中の栄養素の不足と考え、ウイスキー廃液にビタミンやミネラルを加え、群の形成が見られるか調べたいと思います。



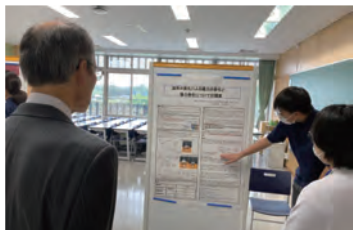
ポスターセッション

- 題 名：「迎角の変化による揚力の変化と揚力発生についての調査」
- 発表者：高校1年中高一貫コース 玉本 大悟（東洋大学附属牛久中出身）



生徒の声

私は揚力発生の仕組みと迎角の変化により、揚力がどのように変化するかについて研究を行った。この研究をとおして揚力の基礎的な知識や翼型設計時の構造への理解を深めることができた。今回は、夏期休暇中も語学研修やオープンキャンパスなどの行事が盛りだくさんで、時間の捻出に苦労することになった。実験環境の構築も大変で、多くの実験道具の作成、実験の実施、考察、スライド作成など手順が多かった。しかし、こまごまとした実験道具の工作をしているときは気分が上がり、なぜこの現象が起こっているのかを試行錯誤しながら突き詰めていくのはとても楽しかった。附属校サミットに参加できたことで、来賓の先生方の鋭い質問やアドバイスをいただくことができて大変感謝している。模型ではなく実際に飛ばすことのできるラジコン飛行機で実験してはどうかというご意見に刺激を受けたので、今後挑戦できたらと思う。



校長先生メッセージ

第29回全国私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研究集会（通称「附属校サミット」）を本校の創立60周年を記念するイベントとして位置付けて準備を進めてきました。

本校は、1964年に東洋大学の附属高校として、高校のなかった当時の牛久町からの要請を受けて、この地に創立されました。併設の中学校は2015年に開校しました。東洋大学の創立者井上円了先生は、「諸学の基礎は哲学にあり」として、「独立自活」「知徳健全」を提唱されました。円了先生は、欧米視察で「海外のことは日本にいて想像するだけではなく、実際に見て体験しないとわからない」として「体感」の必要性を実感され、現実世界を生きた学問とする「活書活学」を提唱されました。円了先生の精神を継承する本校は、豊かな国際感覚の醸成と、文化の多様性の尊重、外国人等他者への敬意と、共生社会の中で積極的に社会的な役割を果たせる人間を育てていくことを目指しています。



本校の「附属校サミット」に向けた取組では、新学習指導要領の趣旨を踏まえて、数年にわたって授業改善を進め、その成果を研究紀要として毎年発行してきました。本校での教育研究集会の研究主題は「アフターGIGA時代の哲学と探究——なぜ、なぜ、なぜ！の追究——」です。アフターGIGA時代を生き抜く生徒たちに必須となる教育とは何か、その根幹に本校の建学の精神に基づいた「哲学」を据え、本校として積み上げてきたグローバル教育、学校改革の成果等を広く発信することができたかと自負しています。 校長 金澤 利明先生

生徒発表

- テーマ：「ICTラボの取組み」
- 題 目：「仮想現実を創る」
- 発表者：高校3年進学コース 松崎 舜（守谷市立けやき台中出身）
高校3年進学コース 橋本 光太郎（美浦村立美浦中出身）



生徒の声

今回の研究を通して、私は自分のやりたいことに対して主体的に調べ、学び、それを実践できるようになったことが、最も大きな成果だと感じています。このプロセスを通じて得た知識やスキルは、研究に限らず、私生活や学校生活においても幅広く応用できるものだと思います。特に、自己で課題を見つけ、必要な情報を集め、それを活かして問題を解決するというサイクルを繰り返すことで、自己成長を促進する力を養うことができました。今後もこのサイクルを継続し、日々の学校生活の中でも意識的に活用することで、学業の向上や自己成長に繋げていきたいと考えています。今回の研究を通じて得た学びは、これからの人生においても大いに役立つものであり、この経験を生かし、さらに成長していくことを目指していきます。

松崎 舜



生徒の声

今回の研究は、当初は興味本位で始めたものでしたが、ここまで多くの人に見てもらえるとは予想していませんでした。この経験を通じて、「自分のやりたいことに挑戦する」ことの重要性を学び、新しいことに挑戦することで自分の可能性を広げる大切さを実感しました。また、仲間と協力して研究を進める中で、チームワークの重要性や、多様な視点から物事を考える力も身につけることができました。これらの経験は、社会に出た後も大いに役立つと感じており、私にとって非常に価値のある学びとなりました。

橋本 光太郎

生徒発表

- テーマ：「英語落語」
- 題 目：「時そば」
- 発表者：中学3年 原 羽衣子（松戸市立幸谷小出身）



生徒の声

今回の英語落語を通して、日本の文化である落語を英語で発表するという新しい経験を行うことができました。これからは英語落語での発表の経験を活かして、人前で発表する能力、英語で話す能力を高めていきたいです。



生徒発表

- テーマ：「SDGsの取り組み」
- 題 目：「高校生徒会の挑戦 養蜂プロジェクトから得た喜びと共生」
- 発表者：高校3年中高一貫コース 田中 愛美（東洋大学附属牛久中出身）
高校3年中高一貫コース 田山 ひかり（東洋大学附属牛久中出身）



生徒の声

「高校生徒会では養蜂活動に取り組んでいます!!」 私達は、高校生徒会での養蜂活動について、実践したことや成果をまとめて発表しました。養蜂活動は、元校長先生のご提案と私の養蜂経験から始まり、採蜜の成功や創造祭での販売を通して、ミツバチの生態を学びSDGsにも貢献することができました。本校生徒会の活動を発表する機会をいただき、たくさんの方に養蜂の魅力をお伝えすることができたこと、とても嬉しく思います。これからも、養蜂活動を広めるだけでなく、地域との連携や活性化ができるよう取り組んでいきたいと考えています。



TOYO NEWS 60周年



ホームルーム合宿 2024年4月22日(月)～24日(水)

先生の声 創立60周年を迎え、新たな行事の一つとして中学・高校第1学年では「HR合宿」を実施しました。高校では今後のキャリア教育に繋がる学びを生み出すために、各コースの特性を生かしたプログラムを組みました。進学・特進・一貫コースではアントレプレナーシップ教育、グローバルコースでは外国人講師によるレッスン・海外観光客へのインタビュー、スポーツサイエンスコースではスポーツ選手の講演・スポーツ体験を行いました。また、2日目の夜には、中学・高校新入生全員がキャンプファイヤーに参加し、焚き火を囲んでマイママイを踊り、校歌を歌いながら親睦を深めました。富士山を眺めながらの大浴場や最終日の富士急ハイランド等、生徒は充実した3日間を過ごすことができました。

高校1年学年主任 松岡先生

生徒の声 私は、新入生ホームルーム合宿で高校初めての同級生と2泊3日を同じ屋根の下で過ごしました。周りには中学校が同じの仲の良い人はおらず、少し孤立感がありました。しかし、自分のクラスの人たちは優しく自分のことをすぐに受け入れてくれました。新入生ホームルーム合宿は私が自分のことを皆に知ってもらう場でもあり、皆のことを知れる貴重な場でもあったと思います。高校に入って友達を作るというのは人によってはとても勇気のいることだと思います。ですが、安心してほしいのは人は見た目より優しくなつたりすることです。だからその優しさを知るために少しでも話す機会をうかがうと良いと思います。

高校1年特別進学コース 藤田 皓星 (龍ヶ崎市中根台中出身)



グローバル講演会 2024年7月30日(火)

先生の声 夏期講習期間の7月30日、大島希巳江先生(神奈川大学国際日本学部国際文化交流学科教授)に英語落語を通しての国際コミュニケーションについて講演いただきました。先生にお越しいただくのは、2017年以来2度目となります。本校では中学校1期生が2年次の創造祭で英語落語に挑戦し、それ以来毎年2年生が全員英語の演目を披露してきました。創造祭にすでに英語落語を披露済みの中学3年生や高校生、そしてこれからの中学1年生、2年生、それぞれに英語で何ができるのかを考える時間を持てたことと思います。先生の英語落語のように、時間を経ても蒔いた種から世界のどこかで花が咲くように、そんな東洋英語落語を伝承してほしいと願います。

外国語科 吉田先生

生徒の声 はじめ、私は日本独自の文化である落語を英語で演じるには無理があると考えていました。方言や少し古い言葉、なまりなどの特徴的な話し方が落語のイメージだった私はそれが上手く伝わるのかという疑問があったからです。しかし、実際に聞いてみると考えていたより楽しめました。「落ち」もはっきりするように説明を加えてくれたので、おかげで落語知識ゼロの私や友達はいくすくす笑い合うことができました。海外での講演の苦労談も興味深かったです。文化の違いを押し付けずにどんな国でも最終的には笑いを取れる大島先生はすごいと思いました。来年、私達1年生は英語落語に挑戦します。先生の落語を参考に頑張ります。

中学1年 鷲見 れいあ (龍ヶ崎市立松葉小出身)

サマーアカデミア 2024年8月19日(月)・20日(火)

先生の声 東洋大学との「高大連携」の一つとして行われた「サマーアカデミア」は、「牛久」「京北」「姫路」の附属3校合同で行われました。同世代でありながら、違った地域の生徒と触れ合うことで、よい刺激を受けていました。この刺激が生徒の進路によい影響を与えることを願っております。

高校2年学年主任 寺田先生

生徒の声 サマーアカデミアを終えて一番感じたことは、あまり体験できない良い経験だったということです。私は生命科学部を選び解剖をしました。それとても良い経験でしたが、特に実際に大学で授業を受け、その雰囲気を経験することを有意義に感じました。私はどこの大学を志望しようか悩んでいますが、この経験は良い判断材料になると感じました。

高校2年進学コース 殿木戸 介成 (柏市立大津丘中出身)

生徒の声 私は経営学部に参加しました。高校生のうちに経営学を学べる機会は少ないので貴重な体験ができました。また、地方の同年代の同じ夢をもつ仲間と出会えるのでいい刺激を受けることができました。附属校ならではのプログラムなので在校生には是非参加して欲しいです。

高校2年進学コース 櫻井 美羽 (柏市立柏第二中出身)

生徒の声 私は国際観光学部に参加させて頂きました。自分では気が付かなかった社会の課題について触れることができ、とても興味深い体験でした。また、様々な地域の学校の交流は特に貴重な機械であり、とても楽しく活動できました。

高校2年進学コース 関 朝香 (我孫子市立立寺家中出身)

生徒の声 附属3校合同イベントで、最初とても緊張していましたが学生スタッフの方や、姫路・京北高校の方々と協力し、コンクリートの環境問題などについて考えることができました。コンクリートについては普段気にしていないことだったので、身近な環境問題についての新しい知識を身につけられたと感じています。充実した2日間ですごくいい経験になりました。

高校2年進学コース 鹿倉 颯太 (市川市立第三中出身)



生徒会活動

体育祭 生徒の声 体育祭実行委員の先生方、生徒会を中心に限られた時間のなかで準備を進めました。前例がない東京体育館での体育祭ということで、運営に携わっている生徒たちはとても不安でした。しかし、全校生徒の皆さんの理解と協力のおかげで、無事に行事を終えることができ、クラスや学年の垣根を越えて交流を深めることができました。

中高合同体育祭実行委員長 高校3年進学コース 中山 環 (牛久市立牛久第三中出身)

文化祭

生徒の声 『勇往邁進～ULTRA☆東洋ミーム』というテーマに沿って、現在私たちは創造祭の準備を進めています！創造祭本番まで一日、一日と近づいているなか、出し物をするクラスはもちろん生徒会も生徒会自体の出し物やステージ発表や全校でのグランプリなど、部署に分かれて運営に関わる準備もしています。今年は東洋大牛久が創立してから60周年という名譽ある年です。必ず成功させたいと思います！！

創造祭実行委員長 高校3年進学コース 梅田 美月 (流山市立西初石中出身)

※創造祭 9月13日(金)・14日(土)に実施しました。

英語ディベート

先生の声 本校では英語ディベートに挑戦しています。英語ディベートには主に2つの形式があります。即興型と準備型です。即興型は論題が提示されて、約20分程度で準備をして試合をします。スピーチのアウトラインを立てて即興で議論をします。準備型は試合前に立論を作っておくことができます。スピーチ原稿は準備できるのですが、相手側からのアタック(反駁)はその場で対応しなければなりません。また、エビデンス(証拠資料)に基づいて話さなければならないので、エビデンスがなければ、簡単に負けてしまいます。今年の準備型の論題は「Japanese government should abolish all nuclear power plants in Japan. 日本国政府は原子力発電所をすべて廃止すべきである。是か非か」です。今年度も4月から有志生徒による熱い戦いが続いています。部活動に所属しながら英語ディベートをしている生徒もいます。皆さんもチャレンジしてみませんか？

外国語科 井上先生

生徒の声 What I get through English debates

It has been a year since I started English debating. Thanks to this, I have obtained three abilities. First, the ability to use English in an impromptu way. You need to understand what your opponent is saying, and quickly prepare your response, all in English. Communication with opponents makes my English ability improve. The second is logical thinking. I have obtained this skill by finding flaws in my opponents' logic, and providing accurate rebuttals. The third is the ability to gather information. The topic of this year's policy debate was that nuclear power plants in Japan should be abolished. Throughout the year, I researched articles and collected hundreds of pieces of evidence to rebut the argument.

The reason why I do English debates

There are two reasons why I am working hard at English debates. The first reason is to improve three skills that will be useful in the future: improvisational English, logical thinking, and information gathering. I believe that the improvement of these skills is directly related to my ability to answer questions on the Eiken tests and mock exams. The second reason is the feeling the fun and sense of accomplishment I get when we win. To be honest, debating is not so much fun when we spend too much time preparing or when we lose. We prepared as a team all summer long, and the joy we felt when we reached the top is the best memory of my debating life.

高校1年中高一貫コース 金子 勇生 (東洋大学附属牛久中出身)

囲碁将棋部

生徒の声 「石を投じた学生生活」

中学から囲碁を始め、高校1年で県大会準優勝。全国大会(in 東京・日本棋院)初出場を果たした。予選リーグ決勝で敗れたものの、全国ベスト16に手が届きそうだった。囲碁の楽しさを再確認し、来年こそは、と意気込んだ。

高2では夏の全国大会にあと一歩及ばず、悔しさを味わった。だが、冬の関東大会では前年度より順位を上げ、成長を実感できた。関東大会で知り合った他校生とオンライン練習会を行うなど、趣味を通して人とつながる楽しさを知った。

高校最後の夏、練習会の成果もあり、念願の県大会初優勝。全国大会の切符を2枚手にした。7月の全国高校囲碁選手権大会(in 東京・日本棋院)では、初戦の負けから気持ちを立て直せないまま、予選リーグで敗退。8月の全国総文祭(in 岐阜県高山市)には茨城県チームの主将として他校生と組み団体戦に出場。3勝3敗で48チーム中28位と健闘した。最後の対局となった大阪府チームは手強かった。終盤まで優勢であったが、最後の最後でわずかに逆転を許してしまった。あのまま勝利していれば、全国17位であった……悔いが残る結果となったが、この6年間で私は生涯の趣味を見つけた。仲間の部員や友人たちに感謝している。

高校3年進学コース 岡田 優成 (柏市立柏第四中出身)



部活動NEWS 2024年度インターハイ結果

本校生徒が 令和6年度 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に出場しました。
結果は以下のとおりです。

ご声援ありがとうございました。

●陸上競技・駅伝部

【日程】7月27日（土）～8月1日（木）

【場所】福岡県（東平尾公園博多の森陸上競技場）

【結果】

- <男子1500m> ・石橋魁さん 予選2組12位（記録：3分54秒21）
<男子5000m> ・石橋魁さん 予選2組19位（記録：15分42秒57）
<男子ハンマー投> ・吉村秀さん 予選2組26位（記録：52m38）
<女子円盤投> ・藤田結愛さん 第5位（記録：41m48）
・南雲いろはさん 予選2組10位（記録：38m88）

●相撲部

【日程】7月31日（水）～8月2日（金）

【場所】大分県（宇佐市総合運動場相撲場）

- 【結果】<団体戦>ベスト32 ・予選1回戦 ● 2-3 ○ 海洋（新潟）
・予選2回戦 ○ 4-1 ● 甲府工（山梨）
・予選3回戦 ○ 3-2 ● 平館（岩手）
・決勝トーナメント1回戦●1-4○和歌山商（和歌山）
<個人戦80kg級> ・今井望夢さん 第3位
<個人戦100kg級> ・秦大士さん 第5位
<個人戦無差別級> ・仲野奏人さん ベスト32
・佐久間秀人さん 予選3回戦敗退
・村越太城さん 予選3回戦敗退

●空手道部

【日程】8月1日（木）～8月4日（日）

【場所】長崎県（佐世保市体育文化館）

【結果】<男子個人組手> ・石井成海さん ベスト16

- <女子個人形> ・高野澤樹里さん 第1ラウンド第1プール5位
<女子個人組手> ・廣川颯さん ベスト32
・今野美希さん ベスト32
<女子団体組手>ベスト16 ・2回戦 ○ 4-1 ● 高岡第一（富山）
・3回戦 ● 0-2 ○ 浪速（大阪）

●女子硬式テニス部

【日程】8月1日（木）～8月8日（木）

【場所】大分県（レゾナックテニスコート、豊後企画テニスコート）

- 【結果】<団体戦>ベスト32 ・1回戦 ○ 3-0 ● 東大津（滋賀）
・2回戦 ● 0-3 ○ 山陽女学園（広島）
<シングルス> ・野口留衣さん 2回戦敗退
・早川汐音さん 1回戦敗退
<ダブルス> ・米山心さん・竹内悠渥さんペア 1回戦敗退
・早川汐音さん・松岡杏樹さんペア 1回戦敗退

入試関係NEWS

入試問題の傾向と対策・受験生へのメッセージ

過去問チャレンジ
2024 一般入試問題より

国語

次の空欄【X】に入ることをわざとして最も適当なものを次の中から選びなさい。
母：この間宝くじを買ったんだ。当たったら新しい電化製品を買って、外食もたくさんして……。あ、あなたにも何か買ってあげるわね。
子：気持ちはうれしいけれど、それは【X】ではないかな。当たった時に考えようよ。
母：もう。現実的なね。

- A 捕らぬ狸の皮算用
B 雀の涙
C 百聞は一見にしかず
D 身から出たさび

答え：A

ポイント・アドバイス

母はまだ手に入るかどうか分からないものを当てるに、期待に胸を膨らませています。不確実な事柄に期待をかけてあれこれ計画を立てることを「捕らぬ狸の皮算用」と言います。この言葉を知っていれば正解にたどりつけます。この問題で求められる力は、ことわざの意味を知っていることと文脈を読みとること。つまり、知識力と読解力です。まずは言葉の意味を知らなければ答えることはできません。過去問を解いた後の見直しの時に知らない言葉の意味を調べましょう。普段から、意味が知らない言葉に出会ったら辞書で意味を調べることを習慣にしてください。

国語：森山先生

理科

80℃の硝酸カリウム飽和水溶液100gには、硝酸カリウムが何グラムとけているか。最も適当なものを①～⑤から選び、マークしなさい。
①21g ②45g ③63g ④98g ⑤169g

答え：③

解法

溶解度とは、水（溶媒）100gにその物質（溶質）が何gとけるかを示した数字です。水溶液とは溶媒＋溶質のことです。問題では硝酸カリウム飽和水溶液とありますから、硝酸カリウムと水が混ざっての100gになります。この問題を解くには比例計算を利用します。溶解度の水溶液は100g+169g=269gです。296g中に溶質は169g入っているの、溶液100g中には何g溶質が入っているのか、比例で考えます。すると、

$$269g : 100g = 169g : X \quad (\text{内項の積と外項の積は同じ})$$

$$X = \frac{100 \times 169}{269} = 62.825 \dots \text{ 一番近い数字を選択肢から選ばべいいので、答えは③になります。}$$

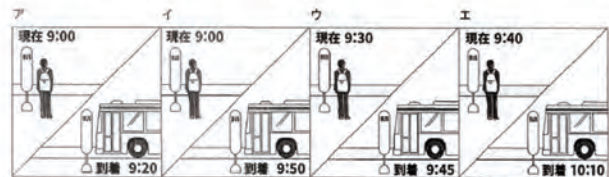
ポイント・アドバイス

問題をよく読んでください。何を求められているのか、何をヒントにすればいいのか。そうすれば使う公式が導かれるはずです。最後まで頑張り抜く君を本校では待っています。

理科：菅野先生

英語

5つの英文を放送します。それぞれの英文の内容を最もよく合うものを、ア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。英文は1回放送されます。



放送された英文

Now, I'm at the bus stop. I have to wait 15 minutes for the next bus to come.

答え：ウ

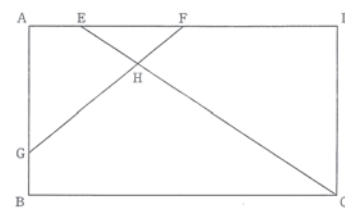
ポイント・アドバイス

英語の入試問題では、全ての入試形態においてリスニングが実施されます。茨城県の公立高校入試の問題をベースに作成しています。ですが、茨城県の公立高校入試のリスニングでは全ての問題で音声で2回流れるのに対し、本校のリスニング問題は1度だけしか音声流れない問題が多数出題されており、難易度が高くなっています。レベル的には、英検3級～準2級レベルを想定しています。配点が30点と大きいので、しっかり対策をしてください！

英語：毛塚先生

数学

長方形ABCDにおいて、AE：EF：FD＝1：2：3である。また、AG：GB＝3：1である。線分FGと線分ECの交点をHとする。このとき、次の空欄に適するものを答えなさい。



線分EHと線分HCの長さの比は、EH：HC＝シ：スである。

答え：シ…7、ス…3

ポイント・アドバイス

相似の図形（同じ形の三角形）ができるように補助線（どこかの延長線など）を引いてみる。
特に比がわかっている線分を延長する。そこに相似の特徴を考慮して必要な情報を獲得しましょう。比の考え方をしっかりとらえて練習してください。解き方を覚えるのではなく考え方を学びましょう。

数学：野崎先生

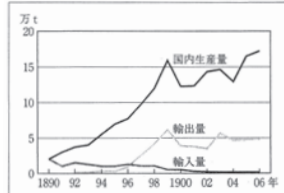
社会

次郎さんは「カード5」について調べていく中で、資料4を見つけ、次のような〈まとめ〉を作成しました。〈まとめ〉の「え」と「お」に当てはまる語の組み合わせとして適切なものを、下の①～④から一つ選びなさい。

〈カード5〉

幕末に結ばれた不平等条約の改正を欧米諸国に認めさせるため、明治政府は欧米諸国にならった近代化を推進していきました。1894年、外務大臣「い」の時に日英通商航海条約に調印したことが領事裁判権の撤廃につながりました。

資料4 「え」の生産と貿易の変化



〈まとめ〉

資料4から、1896年に「え」の輸出量が輸入量を上回ったことがわかる。この理由として第一に考えられるのは、国内生産が増加し続けていることである。また、日本との戦争で敗北した「お」の工業生産力が落ち、日本から「え」を輸入するようになったことも大きいだろう。

- ①[え 生糸 お ロシア] ②[え 生糸 お 清]
③[え 綿糸 お ロシア] ④[え 綿糸 お 清]

答え：④

ポイント・アドバイス

1896年以前に日本と戦争をしたのはどちらなのか？
江戸末期の開国以来、最大の輸出品となっていたのは生糸・綿糸のどちらなのか？ という視点で考えましょう。

社会：松村先生